○ 本校の概要

◇児童数734名、22学級で、特別支援教室拠点校である。学区内には7町会あり、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
◇児童数734名、22学級で、特別支援教室拠点校である。学区内には7町会あり、学校に対して非常に協力的で地域力が高い。
◇PTA活動、お父さんの会、同窓会活動が非常に盛んで児童の健全育成にすすんで関わっている。昨年度開校80周年事業を成功させ、「チーム馬三」としての連携がさらにすすんでいる。
◇学習場面では、一人一人が自らの考えをもって言語活動を通して交流する過程(はなちゃんタイム)を重視し、主体的に学びに向かう力の育成を図っている。
◇縦割り班を活用した児童集会・なかよし給食・なかよし遊び等の異学年交流を通して、集団や社会における人間関係形成力の向上を図っている。
◇「運動大好き馬三の子」を目指して、「馬三元気アップタイム」等を計画的に行い、体力向上に努めている。

大項目目は評価及び字	校関係者評価の結果の概要と改善策 取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指		成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	
プ ラ ン	外国語教育指導員を効果的に活用し、外 国の方々とのコミュニケーション能力の育 成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	4	児童向けに行うア ダンケートで「勉強が ダ 好き」と回答した児童の割合	4: 90% 以上		〇高学年の外国語科が始まり、 学級担任と外国語教育指導員が 連携して、計画的に指導できた。 〇各教室や特別教室の電子黒板	Α	6	・約85%の児童が「勉強が好き」と答えていることに加え「もっと宿題を出して ほしい」とのアンケート回答もあり家族ぐるみで学習に取り組んでいる様を理 解できました。 ・個人用タブレットでのICTの取り組み、まだお互い(学校/保護者)手さぐりな
1 未来社会を創れからの社	論理的、科学的な思考力の育成を目指し、 「おおたのものづくり」を生かした体験活動 や理数授業等を実施する。	1:60%未満であった。 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4	(令和元年度の割合は88.4%、平成30年度の割合は85.3%)	3:	7 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L 2 L	を積極的に活用し、個人用タブレットの貸与も順調に進めることができた。〇児童アンケート(733名中720名回答で回答率98.2%)で「勉強が好き」と回答した。昨年度の割合は84.9%だった。昨年度の88.4%と比べると、3.5ポイント下がってしまった。一昨年度の85.3%と比べても0.4ポイ			部分も多いようです。「教育環境の過度期」を体感している訳ですから、ある意味貴重なタイミングで学習しているんだなあ…と感じます。 ・タブレットの活用は良いことだと思いますが人間としてのコミュニケーション能力も育てて下さい。
	学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、IC T機器を活用した授業を実施する。	1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。	4	j	85% 以上 90% 未満			В	3	・本年度は感染症対策で休校が続き、授業時間も減少の中、学校全ての職員の努力でこの数字に上がっているのではないか。充分な数字であり今後の回復に向けて努力を続けてください。 ・新しい学習指導要領への対応、GIGAスクール構想への対応など社会構造への変化、社会的要請に応える教育システムを円滑に導入すべく御尽力いた
造 会の変化にし 的 なやかに対 に 応する子ども	他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	1:60%未満であった。 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。	4	2 8 1 8	2: 80% 以上 85%	2	ント低い。3年前の82.2%から2 年連続して大幅に上昇してきたが、今年度は成果指標の3段階も クリアできない結果となってしまっ	С	0	」だきありがとうございます。そしてより重要なこととしてこれまで学校や地域で 蓄積してきた経験や知識を疎かにせずに学校教育の中に取り入れていること は高く評価できます。技術や環境は日々新しくなっていきますが子供の学び にとって最も大切な根っこはきっと大きく変わらない「温故知新」の精神であろ
生 の力と自信を き 身に付けま す。 子 供	体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や 「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	3:80%以上の教員で行った。			1: 80%未満	ヤ 阪 え C 用	た。感染症対策で、体験的な活動制や、小集団での話し合いなどの制や、い集団での話し合いると考えられる。 〇各教科で個人用タブレットを活用した指導を工夫し、学ぶ意欲を高め、児童の主体的な学習を促		0	うと思います。 ・タブレットの活用で落ちこぼれの無いことを願っています。 ・タブレットの貸出も始まり、自宅学習の環境も整ったように感じます。このような状況下で馬三小学校の先生方は本当に沢山の工夫をし、素晴らしい教育をしてくれていたと思います。家庭学習に関しては各々の努力にはどうしても限界があるので具体的な案が有るわけでは無いのですがこれからも工夫が必要だと思います。
の 育 成							<b>す</b> 。	D	0	・昨年コロナで授業ができないこともあったので個人用タブレット貸付を早急 にしていただいたのはとてもありがたい。オンライン授業等の取り組みも楽し みなところです。
	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一 人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。	4	の教育に関するアンケート」における 「学校は学習内容	4: 47% 以上		〇学力向上部を中心に授業改善を進め、教員同士が互いに授業を 見せ合うことが増えている。 〇保護者アンケート(733名中62 2名回答で回答率84.9%)の	Α	7	・コロナ対応の為、教室の消毒等先生方の業務負担は非常に高くなっている中、素晴らしい評価結果に感じます。 ・コロナ休校があれだけ長かったのに規定授業数をクリアしたことにも並々ならない御尽力があったことと思いました。 ・成果指標はA評価だけで判断するのではなく、A・B評価で良い。
プラン2 児人ぶんなから ではいる できりを できりを できない できない できない かっちょう アイ・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・アー・	算数・数学到達度をステップ学習チェック シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3. 学期毎に知らせた。     3. 学期毎に知らせた。     2. 年度間に1回は知らせた。     1. お知らせできなかった。     4. 対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。	4		3: 43% 以上 47% 未 之: 40% 以上 43% 43% 43% 43% 43% 43%		「学校は学習内容を身に付けさせている」の回答でのA評価(4段階で最上位)の割合は45.9%だった。昨年度と比べると、1.3ポイント下がり、成果指標の3段階に留	В	2	-・コロナ禍にあっても子供たちの学びのために授業改善の取り組みを実施し ブラッシュアップしていく姿勢は高く評価できます。 ・「計算ぐんぐん」を活用した自宅学習による基礎基本の定着は今年に入って から効果を感じています。どうしても以前よりも運動不足になってしまい若干 の体力の低下が見られるので自宅でできる簡単な体操やストレッチ等の運動
		3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4			3	まることになる。肯定的評価(4段 階でA・B評価の合計)の割合で 見ると、今年度は96.9%あり、 昨年度の96.1%よりも0.8ポイント上昇している。2か月にわたる	С	0	を宿題形式で出してもらえると子供たちの基礎体力の向上に繋がるのではないかと思います。 ・学習カルテで児童1人1人つまずいているところを先生が解ってくれているのはとても心強いです。先生の教え方ひとつで子供の理解力も違うのでお互いの授業を見せ合うことが増えているのは先生たちにもよい刺激となり子供た
	授業改善推進プランを、授業に生かす。 東京ベーシックドリル(算数)を活用し、基	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が活用した。 3:90%以上の教員が活用した。	4	1		,	臨時休業の影響が考えられるが、 指導計画を変更し、今年度内に指導する内容については終えること ができる。 〇授業改善推進プランを活用し、	D	0	ちへの学習の定着に繋がっていると思います。
	礎基本の定着を図る。 小中一貫による教育の視点に立った生活 指導の充実により、社会のルールや学校	2:80%以上の教員が活用した。 1:活用した教員が80%以下であった。。 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	4	児童向けに行うア く ンケートで「友達が ら 好き」と回答した児	4: 97% 以上		学力の定着を目指す。  〇学校生活調査や学級集団調査などの客観的な調査結果に加え、日頃から児童一人一人の様子を			・「友達が好き:98.9%」は正に馬三らしい数字だと思います。 ・アンケートコメントにもあるように「褒めて伸ばす」ことに保護者も大きな信頼 を置いている様が分かります。
プラン 3 豊かな という では、 の自自さどもに、 の自自がととの生する は、 なと他の重成 できていまする を ですする でも のこり のこり できていまする できていまする。 できている。 とっと。 できている。 とっと。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と	のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、 国、都及び区の資料を活用した授業等を行 う等道徳指導充実のための取組を行う。	2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	4	童の割合 (令和元年度の割 合は97.4%、平 成30年度の割合 は、97.7%)	3: 95% 以上 97% 素 2: 90% 95% 95%	観信が	日頃から児里一人一人の様子を観察し、気になる児童について は、情報交換しながら組織的に対応してきた。 〇児童アンケート(733名中720 名回答で回答率98.2%)で「友	Α	9	・問題行動、不登校問題等は民生委員のサポート等も御検討ください。 ・大変立派です。 ・小学校の時期は子供の発達段階、成長過程において変化も大きく、また個 ・ 人差も大きい時期です。ケース会議を開催して支援を必要とする子供、ケアを 必要とする子供が安心して学校生活を送ることができるように関係者が情報
	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の 結果よりストレス症状のみられる児童・生徒 に対して組織的に対応する。	1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	4				通過を出きています。 2.70 (一)	В	0	かませる。
	、   実施する。	1:60%未満であった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4			<b>4</b> 段のか	い水準を維持でき、成果指標の4 段階をクリアすることができた。 〇一人一人が自分の持ち味を生 かすことができ、自己肯定感が高	С	0	ます。長期间に渡り欠席となってしまっても遅れじ無く受け入れてもらえに株で学校から児童たちへの取り組みが素晴らしいものだったのではと思います。 ・児童1人1人を大事にしてくれている中でも友達が好きとの回答の割合がとても高いのはうれしい限りです。
心 ど、未来への	世界の	1:00の未満でのつた。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	·	1 : 90% 未満		まるように、特別活動部や生活指 導部を中心に様々な活動を計画 していく。			
	各教科や学級活動などで「はなちゃんタイム」(話し合い活動)を通して自他の考えを尊重し合う態度を育てる。	4:全教員取り組んだ。 3:90%以上の教員が取り組んだ。 2:80%以上の教員が取り組んだ。 1:取り組んだ教員が80%以下であった。。	4					D	0	
プラスポーツに新 ンしむ心の育 4 はない (アラヤ)	0、工冶自頂に 20、 (の心臓 日光を刊 )。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	児童向けに行うアインケートで「運動が、対き」と回答した児童の割合(令和元年度の割っ	4: 93% 以上		○感染症対策のため、元気アップ タイムでの持久走はできなかっ た。短縄跳びについては、カードを 配付し全校で取り組んだ。 ○児童アンケート(733名中720	Α	6	・基本体力の形成においては十分な対応がなされていると感じます。タイトルの掛かった(青少対ドッジボールなど)もので常勝できるようになるといいですね。 ・来年度は広い校庭で走るぞ遊ぶぞ、運動が好きになるぞ。 ・コロナ禍で運動することを学校の内外で大きく制約されてしまった子供たち。
版や、運動省 慣の定着に よる体力の向 上など、生涯	和良相等及び教科等における指導を通じて、食生活の充実・改善をねらいとした「食 育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。	4	合は92.8%、平成30年度の割合は、90.4%)	90% 以上 93% 未満 2:	名 類 5 1	名回答で回答率98.2%)で「運動が好き」と回答した割合は91.5%で、昨年度と比べると1.3ポイント下回った。一昨年度よりは1.1ポイント高いものの、成果指	В	3	大変残念なことです。しかしそのような制約の中でも動画作成による指導など
一向 康増進を図る と意識の向上 はをめざしま			4	I 	85% 以上 90% 未満 1:		標の4段階には届かなかった。 〇感染症対策のために運動の制 約は避けられないが、体力向上部 を中心に「今できること」を工夫し	С	0	□ (本が同立のガライエンスとなった。) たんじょう。 ・今回のコナから大人でも体力が落ちたなと感じます。子供は更に行動の制限があった中、室内遊びが増え体を動かすことが当たり前でなくなっているように感じる。
健康の	児童の健康・休力向上に向けての取り組み を組織的に行う。		4	保護者向けに行う	85% 未満 4:		て、運動習慣の定着を図る。 〇各教科部が新指導要領のポイ	D	0	・プラン1の結果でも判る通り子供の学習に意欲的な保護者が多いことも馬三
プラン5 魅力ある教育環境・生安活め指と育りに安学送教力質境をを受ける員向なをがらいた教のと教のと教のに表でいる。 しょう はいい かい か	授業公開日の授業評価を、その後の授業 改善に生かす。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。	4	「令和2年度 本校りの教育に関するアンケート」における「学校は一人一人	3: 90%以上 93%未満		は93.2%だった。昨年度から2. 1ポイント上昇した。一昨年度と比べると5.9ポイント高く、2年連続	Α	8	のカラーだと思います。(学校公開の時、夫婦で参観する保護者も多い)その中での高評価(2年連続)は素晴らしい結果だと思います。 ・肯定的評価が高く立派です。 ・発達障害など障害概念の広がり、最新の知見を踏まえた教育環境を日々整 備していこうとする姿勢は高く評価できます。
	ナム教諭が助言・支援な行うが内理修築な	3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	4	懸命指導している」。 の項目の回答での 肯定的評価(4段 階でA・B評価の合計)の割合		1		В	0	・先生方のコロナの状況下での工夫やサポートルーム等の取り組みに感謝しております。馬三小学校は全体的に雰囲気の良い素晴らしい小学校だと感じております。 ・先生方も毎朝登校時から門に立ち子供たちに声を掛けている姿から児童1 人1人と向き合い環境づくりをしてくれているのが解ります。
	自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校におけ	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:月1回以上行った。	4	(令和元年度の割				С	0	
境 づくり	る特別支援教育を推進する。 ユニバーサルデザインの視点で教室環境 を整える。	2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 4:全教員が取り組んだ。 3:90%以上の教員が取り組んだ。 2:80%以上の教員が取り組んだ。	4		1 : 85% 未満		の大幅上昇となった。 〇校舎改築にあわせて、教育環 境のレベルアップを図っていく。	D	0	評定無回答1
プラ	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホーム ページ等で公開及び更新することにより、	1:取り組んだ教員が80%以下であった。 4:月1回以上更新した。	4	保護者向けに行う 4 「令和2年度 本校 8 の教育に関するア	87%		〇感染症対策のため、学校公開 は2学期の道徳授業地区公開講 座だけとなった。そのかわり、学校	A	6	・今回、保護者アンケート(全数・ほぼ原文のまま)コメントがあったことが非常に参考になりました。「現役保護者の声」は我々のようなOBの立場では届きにくいものです。次年度からコミュニティ・スクールの取り組みで皆が「今の馬
ン な6 地域が担う役 割などを明確 て学	積極的に情報を発信する。  地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価  にい要な学校の情報を適切に提供し、適正	1: 更新しなかった。 4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。	4	ンケート」における 「自分は学校の教育活動に協力して いる」の項目の回答での肯定的評価」	3: 82% 以上		のホームページや学校だより・学 級だよりなどで、学校の様子を伝 えた。 〇保護者アンケート(733名中62 2名回答で回答率84.9%)の			三」を共有できる仕組みができることに大きな期待をしております。 ・これからも地域の一員として協力していきます。 ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会)メンバー選考に興味あり。 ・学校、家庭、地域の連携は学校教育や家庭教育にとっても大切ですが社会教育の意味では地域にとっても大切なことだと思います。子供を育てながら子
とも 開かれた教 育の実現を 目指します。	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。	4	(4段階でA·B評価の合計)の割合 (令和元年度の割合は86.4%、平 2			「自分は学校の教育活動に協力している」の肯定的評価の割合は84.3%だった。昨年度より2.1ポイント下がってしまったが、一昨年度よりは1.7ポイント高い。感染	В	2	供から教わる、教えられることも多いです。引き続き子供も大人も1人1人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるように共に学び合える環境を作っていきましょう。 ・コロナの状況下でも沢山の地域活動を行っており、地域の方々も子供たちや学校に対して真摯に向き合ってくださっている様に感じました。校舎改築の
め・地連携を深め、 を対域 子どもを育て る仕組みを作		1:実施しなかった。 4:年3回以上行った。 3:年2回以上行った。 2:年1回以上行った。	4	は、82.6%)	//% 以上 82% 未満 1·		症対策のため、多くの行事が中止となったことが影響したと考えられる。 〇令和3年度はコミュニティ・ス	С	0	や子校に対して具筆に向さ合うくくださっている様に感じました。 校舎収楽の計画も児童、先生、地域の方々皆が過ごしやすくなるよう進んで行ってほしいですね。 ・学校、地域、家庭の連携が良くとれていると感じました。地域でも学校、子供をしっかりサポートしてくれていることに感謝です。
ります。		1:実施しなかった。			1: 77% 未満		クールモデル事業実施校となり、 地域・保護者の代表とともに協議 会を開いて熟議をしていく。	D	0	評定無回答1
<del></del>		<u>i</u>							1	l .

<sup>○「</sup>成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。